

第4学年 音楽科学習指導案

○組 計36人
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 みんなで合わせよう
教材 「茶色の小びん」 芙蓉明子 作詞 ヨセフ ウィンナー 作曲 (本時主教材)
「歌よひびけ」 岩沢千早 作詞 黒沢吉徳 作曲

2 本時 (4/6)

(1) 目標

イ 自分たちのイメージした「びん」を基に、主旋律の音色を工夫することができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

ア 音色の変化のおもしろさを感じ取りながら合奏する活動に進んで取り組むことができる。

【学びに向かう力, 人間性等】

(2) 本時の展開に当たって

子供たちが旋律の音色を変化させることにあこがれをもつために範奏を聴かせたり、こだわって表現の工夫ができるように自分たちのもった「びん」のイメージと音が結び付いているかを考えさせたりする活動を取り入れるようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「茶色の小びん」の範奏を聴き、本時の学習について話し合う。 イメージしたびんに合うように、せんりつの音色を変えて演奏しよう。 ・途中で主な旋律の音色が変わっていておもしろいな。 ・私たちがやってみよう。	(分) ↑ 10 ↓	○音色の変化をつけた範奏に気付くことができるように、「今までの自分たちの演奏と何か違うところはないかな」と問いかけてから範奏を聴かせるようにする。 ○さまざまな音色の変化が工夫できるように、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、グロッケン、木琴の音色の中から選ばせるようにする。
課題追求 表現の工夫	2 主旋律の音色の工夫をする。 (1) 表したい「びん」のイメージを話し合い、どんな楽器の組み合わせや順番で演奏したらいいか話し合う。 ・ぼくたちは「カラフルなびん」だから、1小節ごとに音色を変えてカラフルさを出そうよ。 ・私たちが「大きなつぼ」だから、たくさん音を重ねてみよう。 (2) 話し合ったことを基に、主旋律をグループで練習する。 ・速さが合わなくなってしまうから、演奏しない人たちで手拍子をしようよ。 ・たくさん音を重ねると、音色が分からなくなってしまうね。	↑ 30 ↓	○グループでつくった「びん」のイメージと音を結び付けるために、びんの色や形、大きさから考えさせるようにする。また、組み合わせや順番を学習カードに記録させ、なぜそんな組合せや順番になったのかを発表させるようにする。 ○音色の変化の工夫がそれだけでよいかをグループで客観的に判断することができるように、主旋律以外のパートのメンバーが聴き役にまわるようにする。 ○他のグループの友達の工夫のよさを発見し、認め合うことができるようにするために、お互いの合奏を聴き合う活動を取り入れるようにする。
相互発表・鑑賞	3 お互いの演奏を発表する。	↓	○本時の学習を振り返ることができるようにするために、わかったことや工夫したこと、できるようになったことを中心に発表させるようにする。
まとめ	4 本時の学習のまとめをする。 ・イメージに合わせて、音の順番を考えることができました。 ・1小節ごとに音色が変わって、とても楽しい曲になりました。	↑ 5 ↓	